

「NDL 書誌データ検索シート」のカスタマイズマニュアル

[国立国会図書館サーチリンク集](#)で紹介しています「NDL 書誌データ取得・検索シート」(同志社大学 原田隆史氏)の中から、「NDL 書誌データ検索シート」のカスタマイズ方法について説明します。

- NDL 書誌データ取得・検索シート(同志社大学 原田隆史氏)
<http://www.slis.doshisha.ac.jp/~ushi/ToolNDL/>

<目次>

1. カスタマイズの前に	…p 1
2. 表示させるデータ項目の追加	…p 2
(ア) 表示箇所の確認	…p 2
(イ) 「出力したいメタデータ項目」の XPath の追加	…p 2
(ウ) 検索結果の削除範囲の変更	…p 4
(エ) 【補足】表示させるデータ項目を変更する場合	…p 6
3. 検索項目の変更	…p 7
4. 参考	
(ア) 開発タブの表示	…p 9
(イ) DC-NDL と XPath	…p 12
(ウ) SRU で検索できる項目	…p 14

1. カスタマイズの前に

「NDL 書誌データ検索シート」は、Excel のマクロ機能を使用しています。この Excel のマクロの記述を修正することで、シートのカスタマイズができます。

本マニュアルでは、「データ項目の追加」と「検索項目の変更」を例に、マクロを編集してカスタマイズを行う方法を説明します。(なお、本マニュアルの画面と手順は Excel 2013 を使用したものです。お使いの Excel のバージョンによって、画面や手順が異なる場合があります。)

また、シートのカスタマイズにあたっては、マクロの編集画面を開く必要があります。

マクロの編集画面の表示には、いくつかの方法がありますが、ここでは、開発タブからマクロの編集画面を操作する方法を記載しています。

お使いの Excel で、開発タブの表示方法が不明な場合は「[4.参考\(ア\)開発タブの表示](#)」をご覧ください。

2. 表示させるデータ項目の追加

(ア) 表示箇所の確認

「NDL 書誌データ検索シート」では、2015年12月現在、「タイトル」「著者」「著者標目」「出版者」「出版年」「件名」「分類」「JP番号(全国書誌番号)」「資料種別」の9種類のデータ項目が取得できます。

これらの項目に加えて、「内容細目」を右端のセルに追加して表示させたい場合を例として説明します。

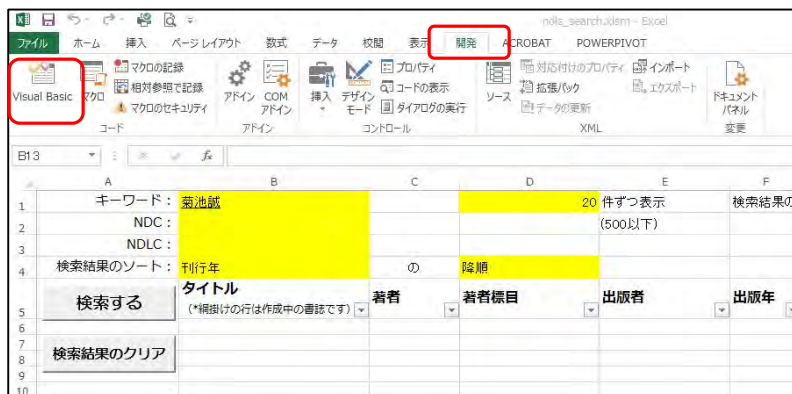
キーワード	NDC	NDLC	検索結果のソート	件数	検索結果の	件目から表示		
赤江 溟			の	20	検索結果の	件目から表示		
			の	(500以下)		(20件以上の検索結果を取得したいときに1以上の数字を入れてください。)		
発行年			の					
タイトル	著者	著者標目	出版者	出版年	件名	分類	JP番号	資料種別
(※網掛けの行は作成中の書誌です)								
ハネギウスー世の生活と意見	中井英夫 著 本多正一 編	中井, 英夫, 1932-1993 本多, 正一, 1964-	幻戯書房	2015.4 2015		ndlc: KH884 ndc9: 914.6	22564871	図書
京都侍談	山前謙 編	山前, 謙, 1956-	有楽出版社 美楽堂	2015.6 2015		ndlc: KH6 ndc9: 913.68	22586308	図書
リテラリーゴシック・イン・ジャパン: 文学的ゴシック作品選	高原英理 編	高原, 英理, 1959-	筑摩書房	2014.1 2014		ndlc: KH6		図書
幻想の系譜	芥川龍之介ほか 東雅夫 編	芥川, 竜之介, 1892-1927 東, 雅夫, 1958-	筑摩書房	2018.10 2018				図書

ここに「内容細目」も表示させたい。

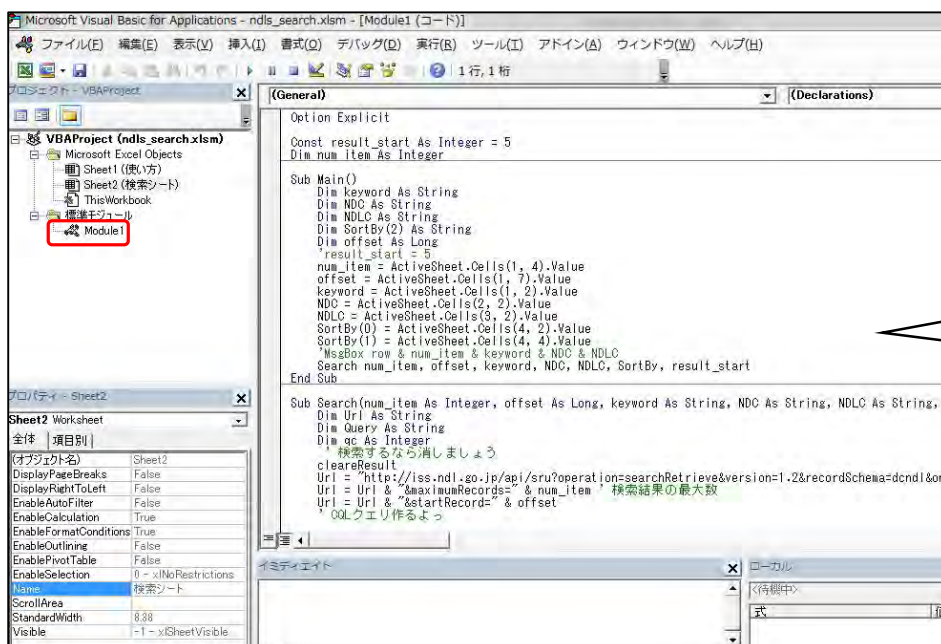
(イ) 「出力したいメタデータ項目」の XPath の追加

「内容細目」を追加するためには、XPath を追加します。手順は以下のとおりです。

(1) 「開発」タブを選択し、「Visual Basic」をクリックして、マクロの編集画面を表示します。



(2) Module1 を選択します。



Module1 の内容が表示されます。

(3) Module1 のプロシージャ「Sub search」内の「出力したいメタデータ項目の XPath を書く」以下の個所を修正します。

※シングルクォーテーション(')以降の赤字の部分はコメントです。

コメントとは、マクロの内容について補足・説明などを記入したものです。コメントの部分はマクロの動作には影響しません。

なお、下記では赤字で表現していますが、使用している Excel の設定によっては緑字など別の色で表示される場合があります。

<修正前>

```
'出力したいメタデータ項目のXPathを書く
'XPathの書き方については http://ja.wikipedia.org/wiki/XML_Path_Language を参照
Dim xpaths(8) As String '項目を増やした場合は、clearResult関数の中も修正すること
xpaths(0) = "dcterms:title" 'タイトル
xpaths(1) = "dc:creator" '著者
xpaths(2) = "dcterms:creator//foaf:name" '著者標目
xpaths(3) = "dcterms:publisher/foaf:Agent/foaf:name" '出版者
xpaths(4) = "dcterms:issued | dcterms:date" '出版年月日
xpaths(5) = "dcterms:subject//rdf:value" '件名
xpaths(6) = "dcterms:subject/@rdf:resource | dc:subject" '分類(NDLC, NDC(9版), DDC)
'xpaths(7) = "dc:subject" '分類(リテラル)
xpaths(7) = "dcterms:identifier[@rdf:datatype=""http://ndl.go.jp/dcndl/terms/JPNO""]" 'JP番号
xpaths(8) = "dcndl:materialType/@rdfs:label" '資料種別
```

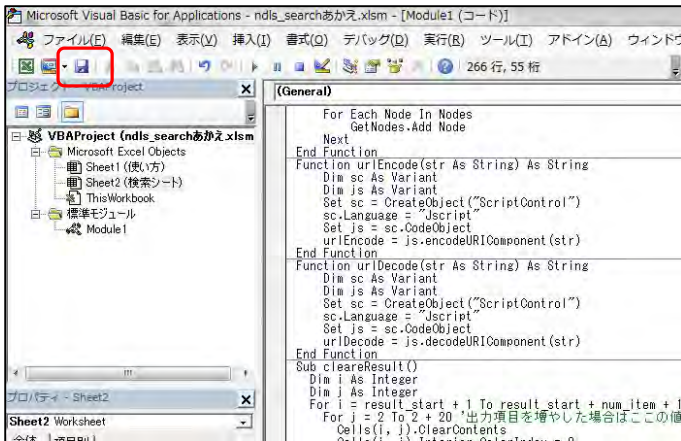
<修正後> ※追加・変更箇所を網掛け

```
'出力したいメタデータ項目のXPathを書く
'XPathの書き方については http://ja.wikipedia.org/wiki/XML_Path_Language を参照
Dim xpaths(9) As String '項目を増やした場合は、clearResult関数の中も修正すること
xpaths(0) = "dcterms:title" 'タイトル
xpaths(1) = "dc:creator" '著者
xpaths(2) = "dcterms:creator//foaf:name" '著者標目
xpaths(3) = "dcterms:publisher/foaf:Agent/foaf:name" '出版者
xpaths(4) = "dcterms:issued | dcterms:date" '出版年月日
xpaths(5) = "dcterms:subject//rdf:value" '件名
xpaths(6) = "dcterms:subject/@rdf:resource | dc:subject" '分類(NDLC, NDC(9版), DDC)
'xpaths(7) = "dc:subject" '分類(リテラル)
xpaths(7) = "dcterms:identifier[@rdf:datatype=""http://ndl.go.jp/dcndl/terms/JPNO""]" 'JP番号
xpaths(8) = "dcndl:materialType/@rdfs:label" '資料種別
xpaths(9) = "dcndl:partInformation//dcterms:title" '内容細目
```

8を9に変更します。
(最後の xpaths の括弧内の数字に合わせます)

xpaths (9) の行を追加します。イコール (=) の右側の記載方法は、
「4. 参考(イ)DC-NDL と Xpath」をご確認ください。

(4) マクロを保存して編集画面を閉じます。

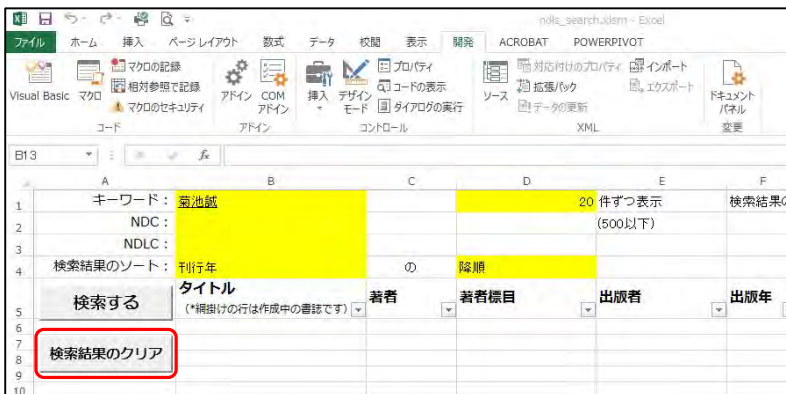


(5) シートに表示項目の見出しを追加します。



(ウ) 検索結果の削除範囲の変更

検索結果を削除する際に「検索結果のクリア」ボタンを使います。表示させる項目が増えた場合には、このクリアボタンでクリアする範囲も変更する必要があります。以下手順を記載します。



(1) Module1 の「Sub clearResult()」内の以下の個所を修正します。

<修正前>

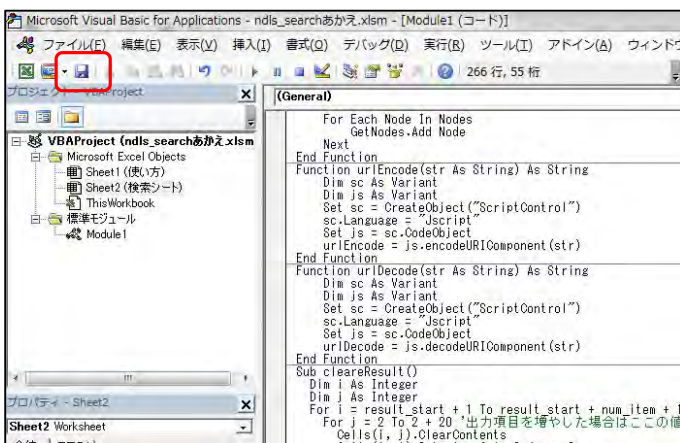
```
Sub clearResult()
  Dim i As Integer
  Dim j As Integer
  For i = result_start + 1 To result_start + num_item + 1
    For j = 2 To 2 + 9 '出力項目を増やした場合はこの値も修正すること
      Cells(i, j).ClearContents
      Cells(i, j).Interior.ColorIndex = 0
    Next
  Next
End Sub
```

<修正後> ※修正箇所を網掛け

```
Sub clearResult()
  Dim i As Integer
  Dim j As Integer
  For i = result_start + 1 To result_start + num_item + 1
    For j = 2 To 2 + 10 '出力項目を増やした場合はこの値も修正すること
      Cells(i, j).ClearContents
      Cells(i, j).Interior.ColorIndex = 0
    Next
  Next
End Sub
```

9→10に修正します。
(最後の xpath の括弧内の数字よりも大きな任意の数字してください)

(2) マクロを保存して編集画面を閉じます。



(エ)【補足】表示させるデータ項目を変更する場合

データ項目の追加ではなく、表示する項目を変更する場合は、以下のように簡単な修正で済みます。
JP 番号を、内容細目に変更する方法は以下のとおりです。

<修正前>

```
'出力したいメタデータ項目のXPathを書く
'XPathの書き方については http://ja.wikipedia.org/wiki/XML\_Path\_Language を参照
Dim xpaths(8) As String '項目を増やした場合は、clearResult関数の中も修正すること
xpaths(0) = "dcterms:title" 'タイトル
xpaths(1) = "dc:creator" '著者
xpaths(2) = "dcterms:creator//foaf:name" '著者標目
xpaths(3) = "dcterms:publisher/foaf:Agent/foaf:name" '出版者
xpaths(4) = "dcterms:issued | dcterms:date" '出版年月日
xpaths(5) = "dcterms:subject//rdf:value" '件名
xpaths(6) = "dcterms:subject/@rdf:resource | dc:subject" '分類(NDLC, NDC(9版), DDC)
'xpaths(7) = "dc:subject" '分類(リテラル)
xpaths(7) = "dcterms:identifier[@rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dcndl/terms/JPNO"]" 'JP番号
xpaths(8) = "dcndl:materialType/@rdfs:label" '資料種別
```

<修正後> ※修正箇所を網掛け

```
'出力したいメタデータ項目のXPathを書く
'XPathの書き方については http://ja.wikipedia.org/wiki/XML\_Path\_Language を参照
Dim xpaths(8) As String '項目を増やした場合は、clearResult関数の中も修正すること
xpaths(0) = "dcterms:title" 'タイトル
xpaths(1) = "dc:creator" '著者
xpaths(2) = "dcterms:creator//foaf:name" '著者標目
xpaths(3) = "dcterms:publisher/foaf:Agent/foaf:name" '出版者
xpaths(4) = "dcterms:issued | dcterms:date" '出版年月日
xpaths(5) = "dcterms:subject//rdf:value" '件名
xpaths(6) = "dcterms:subject/@rdf:resource | dc:subject" '分類(NDLC, NDC(9版), DDC)
'xpaths(7) = "dc:subject" '分類(リテラル)
xpaths(7) = "dcndl:partInformation//dcterms:title" '内容細目
xpaths(8) = "dcndl:materialType/@rdfs:label" '資料種別
```

xpaths (7) を修正します。
イコール (=) の右側の記載方法は、
「4. 参考(イ)DC-NDL と Xpath」をご確認ください。

マクロの記載内容で、他に修正する箇所はありませんが、
画面の見出しも忘れずに修正しましょう!!

3. 検索項目の変更

「NDL 書誌データ検索シート」は通常はキーワードによる検索ですが、Excel のマクロを修正することで、検索項目を変更することが可能です。

今回は、検索項目の「キーワード」を「作成者(著者)」に変更する方法を例に説明します。

(1) マクロ編集画面を開いて、Module1 を選択するまでの方法は 2 と同じです。

(2 (イ)) 「出力したいメタデータ項目」の Xpath の追加 (1)~(2) 参照)

(2) Module1 の「Sub Search」内の「CQL クエリ作るよっ」以下の箇所を修正します。

<修正前> ※変更する箇所を網掛け

```
Sub Search(num_item As Integer, offset As Long, keyword As String, NDC As String, NDLC As String,
SortBy() As String, row As Integer)
    Dim Url As String
    Dim Query As String
    Dim qc As Integer
    ' 検索するなら消しましょう
    clearResult
    'Url =
    "http://iss.ndl.go.jp/api/sru?operation=searchRetrieve&version=1.2&recordSchema=dcndl&onlyBib=true&
ecordPacking=xml"
    Url =
    "http://iss.ndl.go.jp/api/sru?operation=searchRetrieve&version=1.2&recordSchema=dcndl&onlyBib=true&
ecordPacking=xml"
    Url = Url & "&maximumRecords=" & num_item ' 検索結果の最大数
    Url = Url & "&startRecord=" & offset
    ' CQLクエリ作るよっ
    Query = "&query="
    qc = 0
    If keyword <> "" Then
        keyword = urlEncode(keyword)
        Query = Query & "anywhere%3d%22" & keyword & "%22"
        qc = qc + 1
    End If
```

「anywhere」は、「キーワード」を表します。

<修正後> ※変更した箇所を網掛け

```
Url = Url & "&startRecord=" & offset
' CQLクエリ作るよっ
Query = "&query="
qc = 0
If keyword <> "" Then
    keyword = urlEncode(keyword)
    Query = Query & "creator%3d%22" & keyword & "%22"
    qc = qc + 1
End If
```

「creator」(作成者)に修正します。
他に検索できる項目は、
「4. 参考 (ウ)SRU で検索できる項目」をご確認ください。

- (3) マクロの保存をして編集画面を閉じます。
 (4) シートの検索項目の見出しを変更します。

書名:		20 件ずつ表示	検索結果の	1 件目から表示
NDC:		(500以下)		(10件以上の検索結果を取得したいときに1以上の条件を入れてください)
NDLC:				
検索結果のソート:	刊行年	の	降順	
検索する	タイトル (*検索欄の行は検索中の書誌です)	著者	著者標目	出版者
				出版年
				件名
				分類
				JP番号
				資料種別
検索結果のクリア				

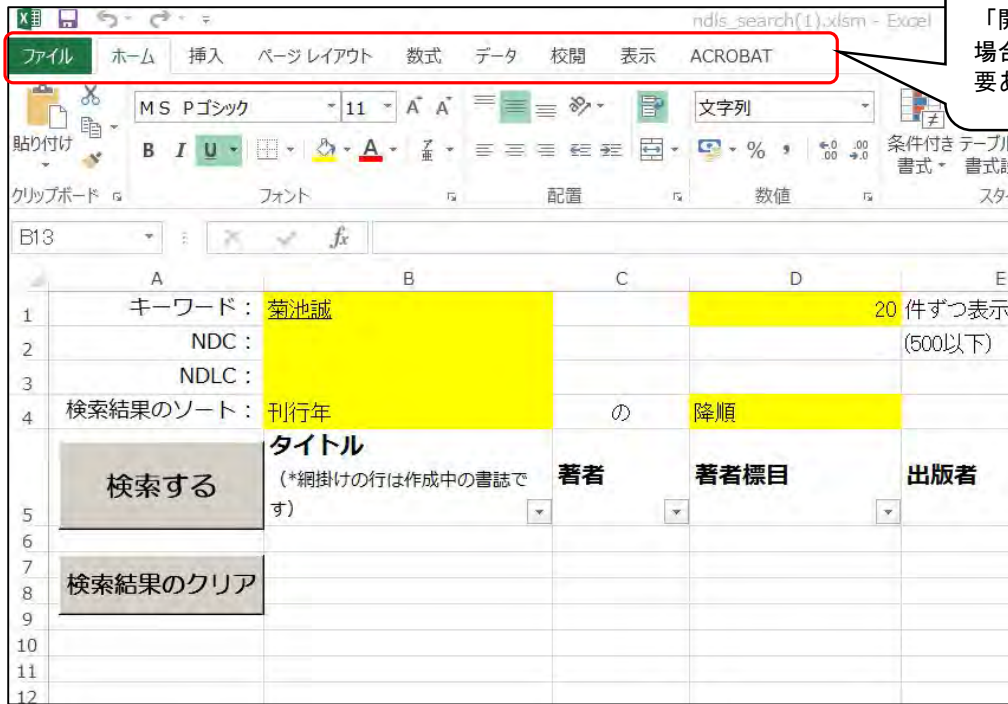
このマニュアルでは検索項目を変更するカスタマイズを説明しました。「新規に検索項目を追加したい」という要望もあるかと思いますが、検索項目の変更に比べて簡単にご紹介できる内容ではありませんので、変更までにはしておきたいと思います。今後要望が多いようであれば、別途マニュアルの作成を検討します。

4. 参考

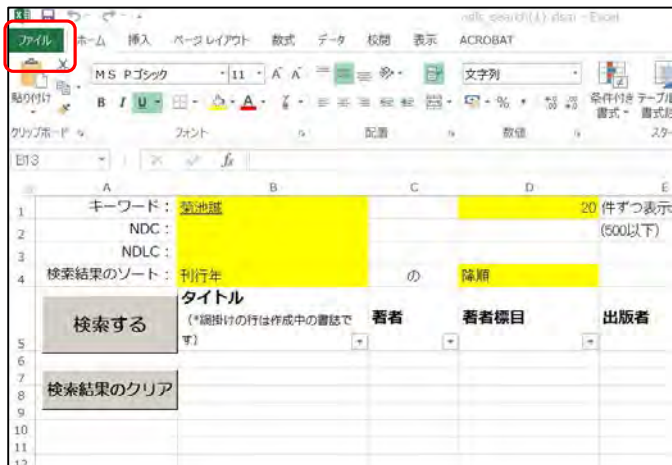
(ア) 開発タブの表示

マクロ編集画面を表示するための、開発タブの表示方法を説明します。なお、本手順は、初回のみ行えばよく、一度開発タブを表示させれば、次回以降は不要です。

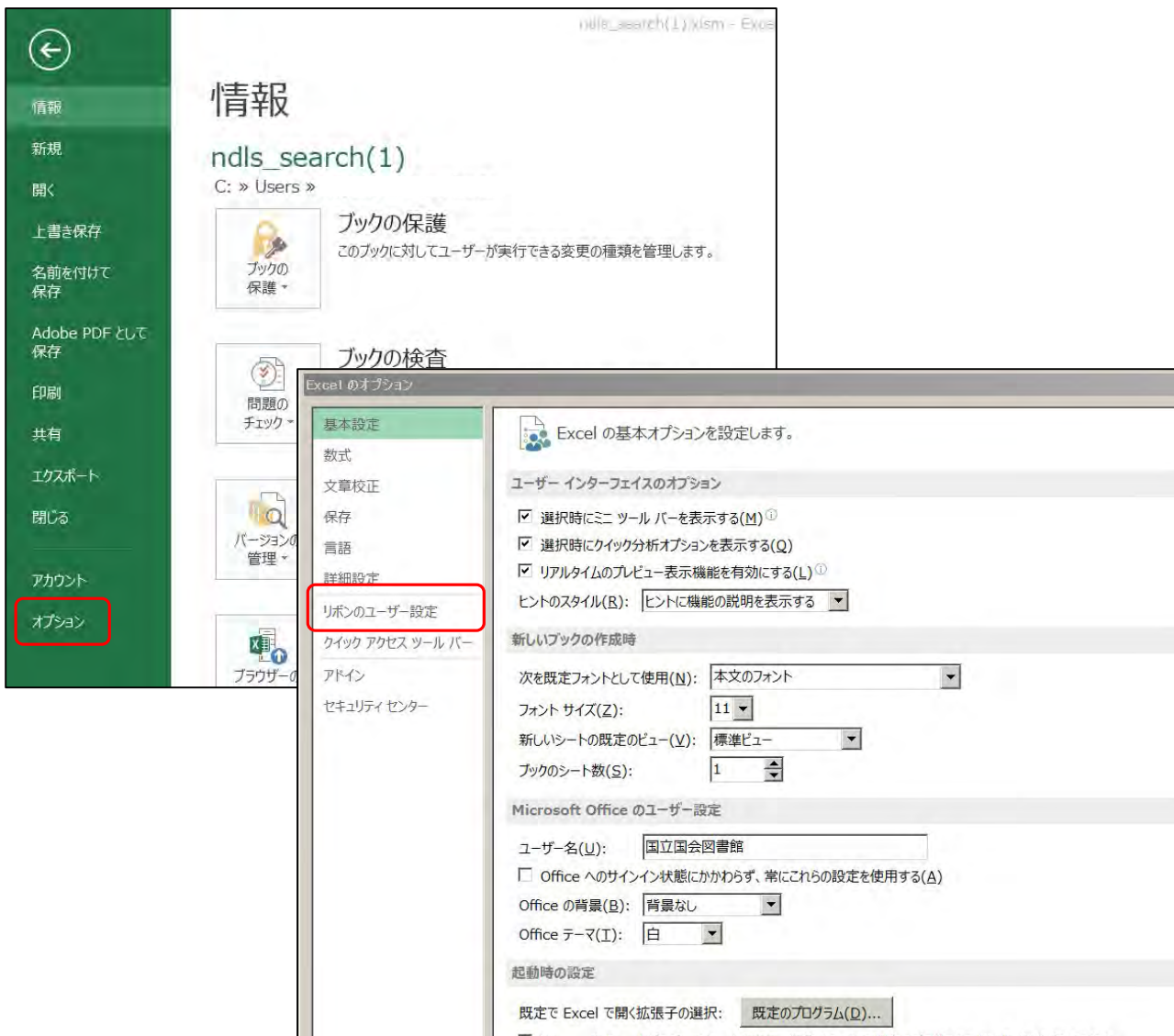
(1) 「NDL 書誌データ検索シート」(ndls_search.xlsm)を開きます。



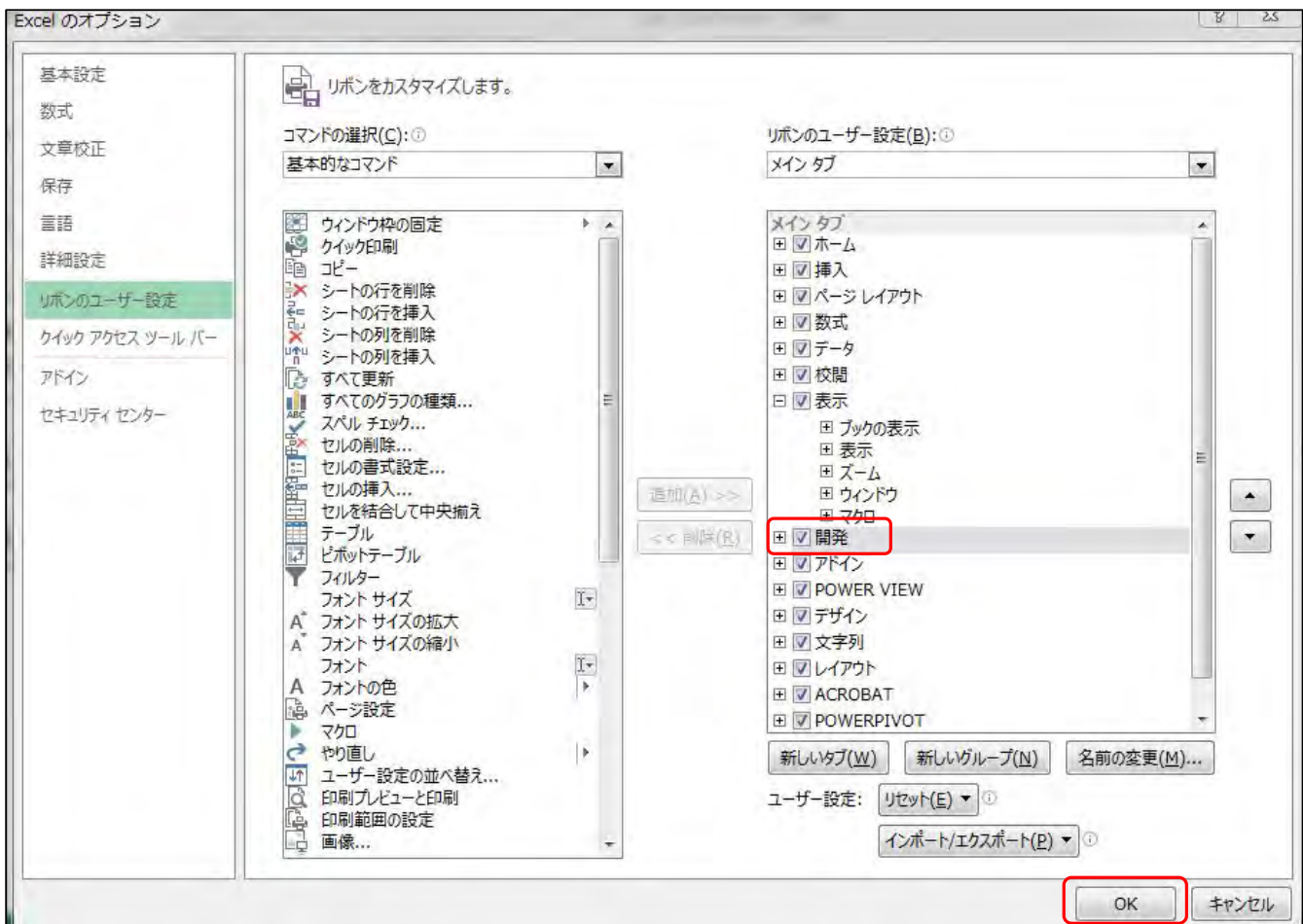
(2) 「ファイル」を選択します。



(3) <情報>画面が開き、「オプション」を選択すると、<Excel のオプション>画面が表示されるので、「リボンのユーザー設定」を選択します。




(4) 「リボンをカスタマイズします」という案内が出るので、リボンのユーザー設定の「開発」にチェックを入れ、「OK」ボタンを押します。



(5) 「開発」のタブが表示されていれば完了です。

たとえば、内容細目（部分タイトル）の場所は、以下のように表現します。

表示させる各データ項目で共通の部分



```

/searchRetrieveResponse/records/record/recordData/rdf:RDF/dcndl:BibResource/dcndl:partInformation/rdf:Description/dcterms:title
  
```

上記の表現ではとても長くて、記載するのが面倒なので、マクロの中では、表示させる各データ項目で共通の部分を、以下のように表現しています。

```
Const NodePath = "/searchRetrieveResponse/records/record/recordData/rdf:RDF/dcndl:BibResource"
```

この表現によって、XPathに記載するのは、以下の部分だけでよくなります。

```
dcndl:partInformation/rdf:Description/dcterms:title
```

ちなみに、「rdf:Description」部分は省略できますので、最終的には以下のように XPath が記載できます。

```
dcndl:partInformation//dcterms:title
```

(ウ)SRUで検索できる項目

「NDL 書誌データ検索シート」は、国立国会図書館サーチの検索用 API の一つである SRU の機能を用いて検索しています。以下に、SRU で検索できる主な項目をご紹介します。

マクロに記載する際は、参照名を用います。

検索項目を含めた SRU の詳細な仕様については、「[国立国会図書館サーチ外部インタフェース仕様書](#)」をご覧ください。

SRU で検索できる主な項目

検索できる項目	参照名	備考
タイトル	title	
作成者	creator	
出版者	publisher	
分類(NDC、NDLC、LCC、DCC、UDC)	ndc	
分類(NDLC)	ndlc	
内容記述	description	
主題	subject	
ISBN	isbn	10桁、13桁のどちらの形式でも検索可能
ISSN	issn	
全国書誌番号	jpno	
開始出版年月日(YYYY-MM-DD)	from	
終了出版年月日(YYYY-MM-DD)	until	
キーワード	anywhere	国立国会図書館サーチの簡易検索と同一
資料種別	mediatype	国立国会図書館サーチの詳細検索の資料種別に対応 “1”:本 “2”:記事・論文 “3”:新聞 “4”:児童書 “5”:レファレンス情報 “6”:デジタル資料 “7”:その他 “8”:障害者向け資料(障害者向け資料検索対象資料) “9”:立法情報